

石破 茂衆議院議員インタビュー

東京一極集中の解消は国のため もっと地方を知り、歴史を学ぶ

歴代最長の安倍政権の幕が下り、菅義偉政権が誕生して2カ月余り。新型コロナウイルス感染拡大による危機の中、日本はともかく新時代に踏み出した。次期アメリカ大統領は民主党のバイデン氏が選出されたが、世界は米中対立をはじめEU、中東、北朝鮮など国際情勢は混とん。自民党の石破茂・衆議院議員は総裁選に敗れはしたものの、国のあり方への提言は傾聴に値した。パンデミックの不安が広がる激動の年の締めくくりに、地方を知悉した政策通で、党内屈指の論客、石破氏に日本の針路について語ってもらった。

（取材：塚本隆編集長、中原道文編集顧問）

——今年を振り返ってどんな年でしたか。

石破 米大統領選もあったが、やはり新型コロナウイルスの影響が一番大きいでしょう。このウイルスは日本が持っているいろんな問題をあぶり出しました。東京への一極集中、効率化のための改革によって安全を軽視してこなかったか、地方自治、議会を含めて地方の役割を軽んじてこなかっただろうか、など様々な問題を顕在化させたと思っています。

——地方の問題とは何でしょうか。

石破 例えば、人口減少が顕著ではないとされる名古屋でも、東区、中区、西区、港区などでは20代、30代の女性は減っている。名古屋にしてこうだとすれば、日本全体の人口減少はどうなるのか。これが最大の問題でしょう。全国1718市町村ある中で、岩手や青森、広島と鳥取の県境にある自治体と東京・歌舞伎町とが同じ政策でいいはずがない。地域がきちんと対応していくことがどんなに大事か、コロナをきっかけとして認識しなければなりません。

——総裁選では独自の国家像を提示。菅政権をどう見ておられますか。

石破 国のあり方を示したつもりでしたが、支持されるに至らなかったということでしょう。（菅氏は）自民党が選んだ総裁であり、内

閣はスタートしたばかりです。総裁選の際の論戦を通じて明らかになった問題に取り組んでいただくことを願っています。

——新型コロナへの対応と経済再生策は。

石破 マクロ経済の状況としては、工場も、店も残っていて、供給能力はあるが、需要がパッと消えてしまったということです。これからの日本経済は内需主導、地域分散であるべきということをコロナが気付かせてくれたと思います。マスク、医療機器などこんなにも外国に頼っていたのか、と多くの人が驚いた。食料自給率は38%で、エネルギー自給率も低い。わが国はかつて資源不足を理由として太平洋戦争に突入していましたが、外国への依存状況はその時よりも進んでいるのではないのでしょうか。

企業の余力で最低賃金増を

——内需喚起のためにはどうすれば。

石破 株主や経営者などの一部が金持ちになったところで、外国に過度に依存する構造が続けば、いつかこの国は立ち行かなくなります。年収2000万円の人が2200万円になっても増えた200万円はあまり使わない。しかし、年収200万円の人には220万円になると20万円を使ってくれます。このような層の所

得を増やすことが大事です。

——そのための施策は。

石破 最低賃金を引き上げることですね。法人減税や金利安、円安は、企業収益には資するでしょうが、従業員は十分にその恩恵を受けていない。企業の余力を最低賃金増につなげて消費を喚起して、その結果として企業の力を強くしていくべきではないかと私は思います。

——イージス・アショア（陸上配備型迎撃ミサイルシステム）断念で安全保障も深刻な課題です。

石破 わが国の防衛について論理的に突き詰め、最後は米国が何とかしてくれるという考えから脱却することが必要です。当たり前ですが、そんなことは元々あるはずがないのです。米国の力が相対的に落ち、中国が急速に台頭。その中で米国が自国を犠牲にして他国を救うなどあり得ません。自衛隊を憲法に書くだけで、日米安保条約、地位協定はそのままでもいい、ということにはなりません。

——規制改革も言った後に方法を考え、コロナ対策も後手後手。結論の後に施策が来るケースが多すぎるのではないのでしょうか。

石破 おっしゃるようなことを私は総裁選で訴えたつもりですが、支持を得られなかった。人口が増え、高度経済成長期であった冷戦構造

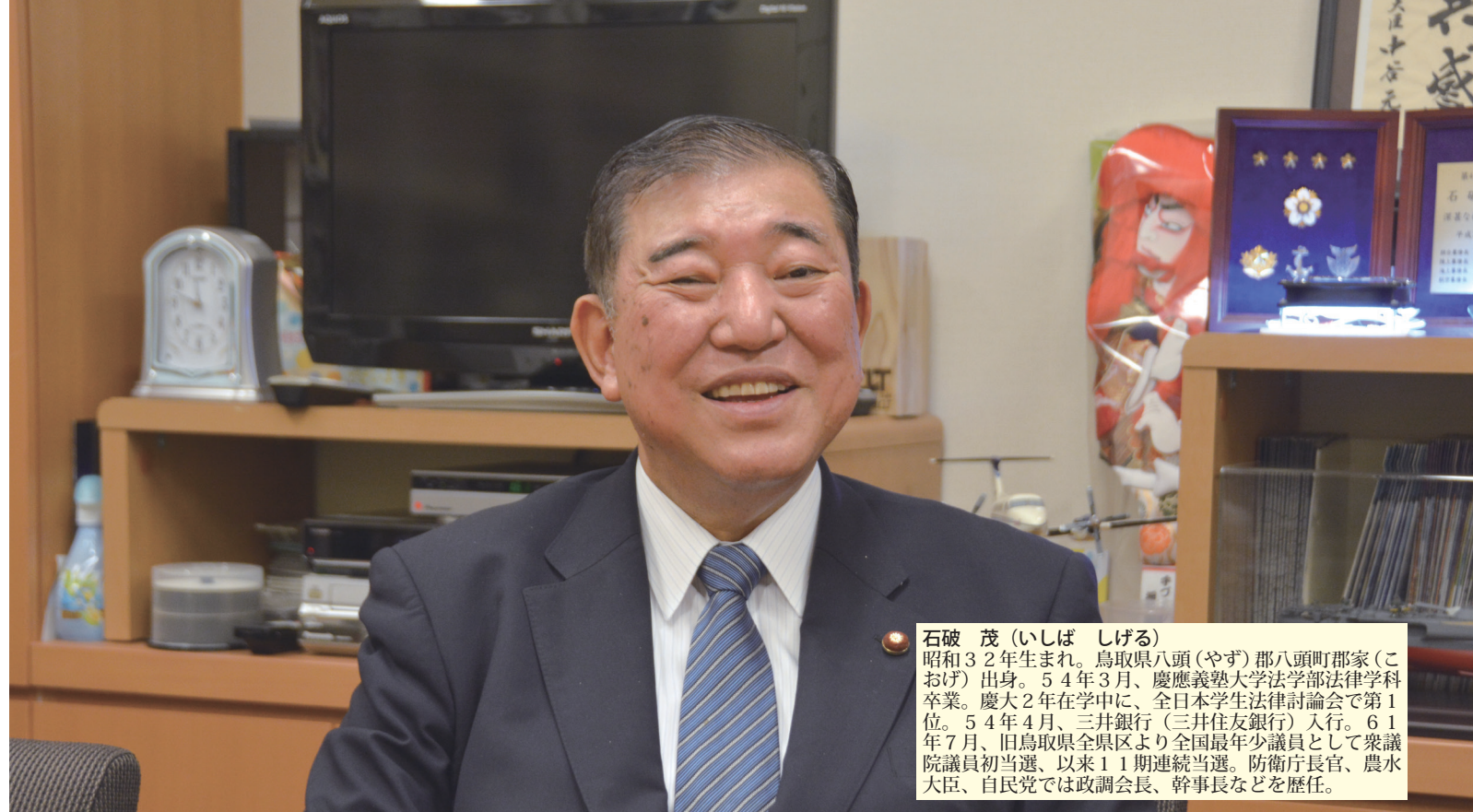
下の日本では、いろんなことを先送りしても何とかなったんですよね。米ソが対立、東西の力がバランスしていれば大きな戦争は起こらない、そういう冷戦構造が崩れた。そして中国は十数年後には軍事力で米国を抜きます。甘く見ない方がいい。また、仮に朝鮮半島が統一するとすれば、米国の足掛かりとして日本が最前線になるかもしれません。安全保障政策も先送りの許されない時代になっているのです。

——人口減で、社会構造も急変しています。

石破 いま1億2500万人いる日本人は、このまま何もしなければ、あと80年で半分、約5200万人へ減少すると言われています。これはこれまで歴史上なかったこと。内需拡大や生産性向上、デジタル技術の幅広い活用などで経済成長の方向性を確保するとしても、人口が半減しては土台が崩れてしまう。医療や介護や年金についても、構造的な改革が必須です。私の訴え方が悪いのか、こうした考えはまだ広く共有されるに至っていない気がします。

——かつての自民党は様々な議論を経て結論を導き出してきましたが、近年は議論のプロセスが見えない。民主主義の危機さえ感じます。

石破 大きな変化の背景には、平成の30年とは何だったのかを総括しないまま令和に入っ



たこともあると思います。昭和は私が議員 1 期生だった 6 4 年と 7 日で 1 9 8 9 年に終わりましたが、前年の秋ぐらいから昭和天皇の重いご病気が伝えられ、日本人の多くは覚悟を持たざるを得ませんでした。令和は上皇陛下が天皇であらせられた、ご健在なうちに皇太子に位を譲られ、お祭りムードの中で迎えられ、平成の総括はあまりされませんでした。

平成とは「戦後」が終わった時代です。日中戦争に従軍された角栄先生（田中角栄元首相）は、「あの戦争に行った人がこの国の中心にいる間、日本は大丈夫だ。いなくなった時が怖いからよく勉強しろ」と言われました。昭和 2 0



（1 9 4 5）年に 1 5 歳で少年兵だった人は今年、9 0 歳ですからね。国の中心からほとんどいなくなっています。

——**戦争を知らない、不勉強な日本人が持つ危うさですか。**

石破 そうですね。平成の変化の 2 つ目は、おっしゃったように民主主義が相当に変わったことだと思います。選挙では投票率がどんどん下がり、議員や首長は誰がなっても同じ、私の 1 票では何も変わらない、と考える人が増えました。

新聞など紙媒体を読む人は少なくなり、地上

波のテレビも見ない。みんな携帯で必要な情報を集めるが、気に入った情報にしかアクセスしない。言論界が変わったのも大きいですね。私はメディアと権力が一体化したら国は亡びると思っていますが、権力に無批判なメディアが増えました。日本が無謀な戦争を始めた時も、批判するメディアは徹底的に弾圧されましたね。そして、少数意見を大事にしないと民主主義は健全性を保てなくなります。

——**安倍長期政権下では、官僚は付度、国会議員も言論を戦わさなくなった。**

石破 自民党議員は、政務官になり、副大臣、常任委員長、大臣になって能力を発揮したいし、地元の期待に応えたいと思っている。そのためには異論を唱えない方がお利口ということかもしれません。私は若くして議員になり、選挙区の皆さんのおかげで選挙も比較的安定しているし、偶然が重なって党の役職や大臣を何度もやらせてもらったからこそ、異論を唱えられるということかもしれません。

トヨタの力で日本が変わる

——**愛知の特徴とは何でしょうか。**

石破 例えば名古屋は日本のために何ができるか考えてみてください。トヨタ自動車の本拠地の豊田市は日本のデトロイトといわれるが、行ってみると、中山間地にありますよね。トヨタの今があるのは、もちろん従業員の努力の賜物ですが、地域の特徴も大きいのでは。市町村合併もありましたが、豊田市には旧稲武町や旧足助町があり、従業員は近代的な工場で働き、生活の拠点は自然の中、という人も多い。これこそがトヨタの強みだと思っています。

——**「排他的」が当地域の代名詞でした。**

石破 「名古屋のご当地ソングは売れない」というやつですね。北島三郎が全国各地を歌った中で、最も人気がなかったのが「なごやの女」、名古屋を舞台にした石原裕次郎の「白い街」は全然売れなかったといえます。つまり、名古屋、愛知は様々な面で恵まれていて、人々も勤勉で努力し、外へ売り込まなくても、自分たちの中

で高めていくところがあるという気がします。ご当地ソングはもっと流行っていいと思いますが、名古屋、愛知、トヨタの力で日本を変えていくことはできると思います。

——**コロナ禍を受けたテレワークの浸透などで地方分散の兆候も。東京一極集中は解消されますか。**

石破 パリもローマもロンドンもベルリンも東京のような集中はありません。集中が顕著なのはソウル、バンコクくらい。東京の一極集中は人為的に一気に行われました。江戸時代は、徳川家の治世が 2 6 5 年続きましたが、これは幕府がいかに江戸に一極集中しないようにするかを考えたからです。時代劇に馬は出てきても馬車はなく、大型帆船もない。技術的には作れたはずだが、作らせなかった。ヒト、モノ、カネの出入りを制限しながら、全国各地の藩には独自の経済、文化を認めてきたのです。

東京への集中は欧米列強に対抗するため、明治政府が富国強兵、殖産興業を掲げて一気に行い、価値観を変えた。短期間に日清、日露戦争を戦い抜く国に急成長させた。戦後も集中を加速させ、昭和 4 3 年に世界第 2 の経済大国になった。人為的行われた一極集中はわざと壊さなければ時代に合わない、このままでは国の持続性が危ういと思っています。

——**かつて首都機能移転が衆参で国会決議され、候補地も絞られながら雲散霧消しました。**

石破 実現しなかったのは、議員が今さえよければいいと考えたからでしょう。南海トラフもそうですが、首都直下型地震は来るか来ないかではなく、いつ来るか、です。富士山も 3 0 0 年の間、噴火していないのは極めて珍しい。いつ噴火してもおかしくない。そういう東京に人と物と金が集まっているわけです。ドイツの損害保険会社だと思うが、毎年、世界主要都市の危険度ランキングを出しています。いつも 1 位は東京。東京が抱える負荷は大きく、これを減らしていかないと日本全体も持続できないのではないかとと思っています。

——**2 0 2 1 年の日本のあるべき姿と、ご自**

身の抱負を。

石破 今日日本が抱えている問題は安全保障、社会保障、そして経済の構造改革、今やらなければ間に合わないことばかりです。危機になって慌てても遅い。縦割り行政の打破は必要、デジタル化も必要、ハンコをなくすのもそうですが、それらの手段でどういう日本を創っていくのかについて、菅総理のもとで共有、共感される。そういう動きが加速するといいな、と思っています。

必要とするなら逃げません

私自身は、世の中には知らないことが沢山あるな、と思う。それは恐怖に近い。愛知県も、豊田、みよし、安城市などは知っていますが、豊橋、東海市などはあまり知りません。全部の市町村を知る必要はないのかもしれませんが、国の政策を考えるときに、例えば、豊橋、岡崎市の人はどう考えるのだろう、という感覚は大事だと思う。

1 0 0 年に一度、と軽く言う人がいますが、1 0 0 年前を知っている人はいません。戦争を繰り返さないためにも歴史を学ばなくてはならない、勉強しなくてはと思っています。それを（今後の政治に）活かせる時が来るのか、来ないのかは分かりません。しかし、必要とされる時がもし来たら、逃げてはいけないと思っています。

——**学びのテーマは何でしょう。**

石破 日韓関係の改善は大事です。徴用工問題、従軍慰安婦問題での日本の主張は国際法的にも正しく、また竹島は日本の固有の領土。しかし、その主張に説得力を持たせるために、われわれは韓国、朝鮮の歴史や文化を学ばねばならない。韓国人は中華文明を体現してきた「小中華」としての歴史を誇りに思っていることを前提に話し合わなければならない。北朝鮮の核が統一朝鮮の核になった時、その統一した国家が極度に親中であれば、わが国の安全保障の前提は変わる。こういう背景を知らないとこれから先の政治はできないと思うのです。

——**ありがとうございました。**